



モビリティから過疎地を活性化する～先進過疎地・庄原市での取り組み～

庄原MaaS検討協議会（事務局：庄原商工会議所

コアメンバー：備北交通・庄原市・広島県・呉高専神田研究室・庄原DMO・MaaS Tech Japan)

取り組みの背景とコンセプト

- 深刻な人口減少・少子高齢化：10年で1割以上の減少ペース（33,000人(R4.7)）
- 広大な市の面積：香川県の1/3の面積。（東西約53km、南北約42km）
- 将来、交通も立ち行かなくなり、地域も経済も立ち行かなくなる危機感



→人口の減少に対し、移動の量を増やし、外出機会を増やし、結果、心身ともに健康になり、消費もし、活力ある地域をモビリティから実現したい

取り組みの経緯

過疎地の課題先進地が、先進的な発想と取り組みにより過疎地の活性化に挑むというコンセプトから、「先進過疎地」を標榜

- 2018.1：「庄原の人口問題をとことん考える民間会議」設立
- 2018.10：「民間会議のまとめ」を市役所に提言
- 2019.1-3：「経産省：社会課題解決創出ワークショップ」、通信会社への訪問、議論、地域でのMaaSの勉強会
- 2019年度：国土交通省MaaS事業
- 2020年度：経済産業省MaaS事業
- 2021年度：広島県MaaS事業
- 2022年度：民間の事業のみで展開

→地方部で民間主体によるモビリティからの地域活性化プロジェクト（商工会議所が中心に推進）

Project 2019: MaaSに触れる (2019.10-11月)

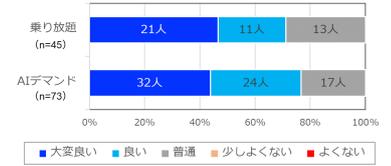
【検証テーマ】

- MaaS黎明期。過疎地でMaaSが通用しうるか？
- 過疎地にあったAIオンデマンド交通の模索
- サブスクリプション（AIデマンド+路線バス+市内バス）
- デジタルツール（アプリ）の適応可能性
- グリーンズローモビリティによる観光魅力度向上
- それらによる市民の方々の活動の変化

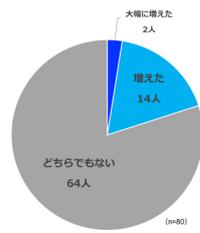
成果と課題

- 過疎地でも使いやすい交通+運賃は評価。新たな移動を掘り起こせる。
- 乗車スポット(停車場)をニーズに応じて設置できる利点
- 予約受付の仕組み(デジタル?電話?)
- 使いやすいAIデマンドのシステムが課題

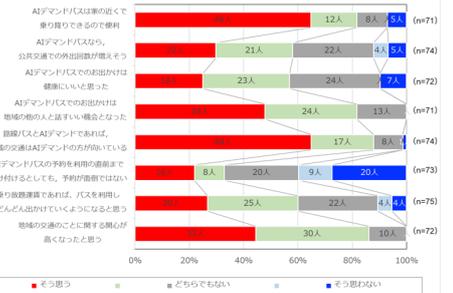
▼Q: 今回の「AIデマンドバス」や「乗り放題制度」はよかったですか？



▼Q: 実験期間中、外出される回数は普段と比べて増えましたか？



▼Q: AIデマンドを使ってみた感想・感覚など



Project 2020: デジタル化の模索

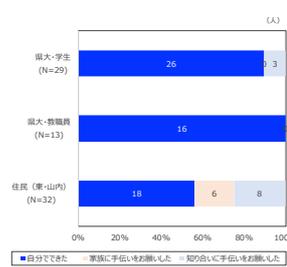
【検証テーマ】

- デジタルツールはどこまで通用するか？
- AIオンデマンド交通は水平展開できるか？
- 市内にある大学生とその周辺地域を対象に、AIオンデマンド交通を運行
- 前年同様、セミデマンド（方向のある運行・時刻表あり）
- 予約はWebのみ
- 前年同様サブスク（Paspay(交通系IC)活用）

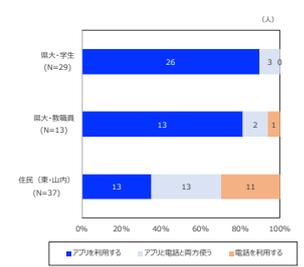
成果と課題

- 高齢者には説明会を開催するなど、丁寧なコミュニケーションにより、デジタルでの予約のハードルは軽減（ただし、高齢者は困難と感じる人は一定数ある）
- 本人が予約が難しい場合でも、誰かの支援により対応
- アプリやシステムの使い勝手（利用者サイド・運営サイド）は改善の余地あり。

▼Q: 予約にあたり、誰かに操作の手伝いをお願いしましたか？



▼Q: もし、電話でもアプリでも予約できるようにした場合、どちらを利用しますか？



区間	運行日時	乗車料	乗降スポット
庄原市街地中心部	9:00 11:00 14:00 16:00 18:00 21:00	900	市街地中心部
山内地区	9:00 11:00 14:00 16:00 18:00 21:00	900	山内地区
東地区	9:00 11:00 14:00 16:00 18:00 21:00	900	東地区

Project 2021: 低頻度路線バスのAIデマンド交通への転換可能性

【検証テーマ】

- 利用者が少なく便数の少ない路線バスを、AIオンデマンド交通にシフトできるか？
- 路線バス（4往復/日）を3ヶ月間、AIオンデマンド交通として運行（+1地域ではAIデマンド交通を新設）
- 乗車スポットをニーズに応じて増設
- 予約はWebと電話の併用
- 前年同様サブスク+地域電子通貨支払い

成果と課題

- 路線バスからの転換は、予約の抵抗感が大きい（路線バスの気軽さの評価が高い）
- 一方で、これまでにバスのない地域では予約は気にならず→名称とコミュニケーション(MM)の問題？

Project 2022 (現在進行中)

「実験」から、いよいよ交通を軸とした「共創・実装・実走」へ

- ① 人とモビリティをつなぐ「MaaS コンシェルジュ」デジタルとアナログを融合した「モビリティ・ハブ」により案内と様々な交通手段の結合
- ② 地域内のタクシー会社との協働・共創による取り組み地域内移動手段としてタクシーも積極的に案内・活用。ともに勉強する。
- ③ 定時定路線バスでの「サブスク」の導入利用が極度に少ない路線の昼間時間帯で、戦略的なサブスク価格設定により外出促進。
- ④ 「客貨混載」による効率的な物流の拡張（本格導入）BtoB：物流事業者の幹線輸送の一部代行(既に実施) BtoS(shop)：仕入れ輸送の代理輸送(2021年度に試行済)